

第44回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成27年11月27日（金） 18：00－18：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者：

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

内閣府 小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、

高見参事官、内丸参事官、松井参事官、末富参事官、守山参事官

外務省 齋藤宇宙室長

文部科学省 田中研究開発局長、堀内宇宙開発利用課長、鎌田宇宙利用推進室長

4. 議事次第：

(1) 国際宇宙ステーション計画について

(2) 宇宙基本計画工程表（平成27年度改訂）（素案）に関する意見募集の結果について

(3) 宇宙基本計画工程表（平成27年度改訂）（原案）について

(4) その他

5. 議事：

(1) 国際宇宙ステーション計画について、現在の検討・状況につき、文部科学省から報告を行った。質疑応答は以下の通り。

○当初から比べ、ここまで協力的な形で、前向きな形で日米合意が見えてきたという事は成果だと思っている。よって、今の段階で日米両国で協議できることはここで出し尽くしたのかと思っているので、この場で延長については合意するという方向性に私も賛同している。今後は延長参加に向けて、今回の合意内容がシンボルだけで終わらないように、詳細に向けて実際に動けるような形で、引き続き精力的に調整をお願いしたい。（山崎委員）

○国際宇宙ステーション計画の延長の是非については4月以来ずっと議論を続けてきたが、我々全員で考えている方向に動き出したと認識しているので、御礼申し上げます。私が特に重視しているのは、CSOC（共通運用経費）の新たな枠組みを構築する可能性を少なくとも残しているという点と、CSOCで日本が対応する必要がある新しい技術を、HTVあるいはHTV-Xなりを積極的に活用していくというような方向性も見えているということは一つの成果だと思っている。もう一点、山崎委員もご指摘の

通り、やはり将来的に合意を受けてどうするのかということは、今後も検討を続けるということが非常に重要なところだと考えている。(山川委員)

○これは一つの成果になったということと同時に継続してアメリカと議論をして、アメリカだけではなくて、宇宙ステーションに参加している国全体の便益の方向を考えながら進んでいく必要が今後もあるので、引き続き日本としての主張を行い、日本に便益があるような形で、共同作業ができるような形で御議論をいただきたい。(中須賀委員)

○冒頭に日米の宇宙協力の全体の枠組みがまず示されているということが非常に重要であり、シビル、コマーシャル、ナショナルセキュリティと全ての面が明記されている日米のこういった枠組みの中でISSが位置づけられているということも非常に重要な観点であり、それもよかった点ではないか。(山川委員)

○ここまで我々がこういう方向でという方向性をほとんど満たしているので、これで結構。だが、これはまだ検討項目であってこれから検討するということが非常に重要。検討の結果がどうなるかということが実は重要。それは今後の協議に任せるといふ風になっているので、ぜひしっかりした協議の場を通じて、この意見を今後とも生かすように努力していただきたい。(松井委員長代理)

○ISSの新たな活用の推進の中で、ISSの技術実証プラットフォームとしての活用と、我々衛星屋にとってみたら、結構ISSの技術実証プラットフォームは非常に魅力的。この魅力をもっと訴えて、いろいろな方々が実証しやすいような形で、入っていきやすいような形をぜひ提示していただければ、いろいろな人が入ってくるのではないかと思うので、これもぜひ頑張ってください。(中須賀委員)

○日米で合意する文章の法的な位置づけについて、外務省の意見を伺いたい。(小宮宇宙戦略室長)

●もともとこれは法的な文書ではなく、あくまで政治的な文書という認識。(外務省)

●まだ当然これから日米間で詰めなければいけない点があるという御指摘があったので、そこはもちろん文科省とNASAというだけではなくて、必要に応じて、途中でいろいろなポイントポイントで宇宙政策委員会あるいは関連する部会に報告をさせてもらって、指示を仰ぎながら中身は詰めるということは約束したい。(文部科学省)

○今の点に関連して、結局、文書の法的な位置付けだけではなくて、日米のどの役所が名前を連ねるかというところが、結局はどこがやっていくかという話になると思うので、今の我々の意見をぜひとも考慮して頂きたい。(山川委員)

(2)「宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)」の素案に対する意見募集の結果について、事務局から報告があった。

●資料1に基づき、パブリックコメントの結果を御報告させていただきたい。

まず総論的なことを申し上げますと、今回のパブリックコメントの特徴は、工程表の内容を読み込んだ上での前向きかつ具体的な提案が多いということ。そういう意味では、昨年の基本計画の段階では、決めつけてコメントをしているものがやや散見されたことに比べて、じっくりと読み込んだ上で建設的な提案をされているものが多かったという印象。

それから、全ての工程表に意見が寄せられているということで、多様な興味を持った人から意見が出されている状況。

前回と同様に1週間の意見募集期間だったが、寄せられた意見数は昨年の5割増しになっている。262件ということで、そういう意味では宇宙政策への関心の高さがあらわれている。

1ページ目をご覧になっていただくとわかるように、男性が非常に多いが、去年より未記入の人が少し増えている。また、去年は民間と大学とその他ということで、大体2割5分ぐらいずつの感じだったが、無記名の人が去年より少し増えているということが、今年の特徴。

回答の案文を右側に付けているが、一個一個について回答するのではなくて、意見の要点を把握して要素分解をして、それぞれ短い問いに再編成をして、類似の意見は1つの問いに束ねた上で、まとめて回答をするという形にした。

結果として、1つの意見の中で複数の内容を意見として出しているものが結構多かったので、意見の総合計は262件を上回る形になった。これは複数の意見を一遍に出してきた人が何人もいたということ。(小宮宇宙戦略室長)

●補足をさせていただく。内容については今、室長が申し上げたとおりなのだけれども、事務的なことで、最後の2ページにやり方そのものについてのコメントがきているので、そこだけ2、3御紹介させてください。

1つは、後ろから2ページ目のところに(0-1)とか(0-2)とあるように、工程表だけを見て、こんな中身の薄いものでコメントしろということは難しいのだということが幾つかきているのだけれども、それに対しては本文と合わせて見てくださいというコメントをせざるを得ない。

あと、1週間というの短いのではないかということに対しては、工程表については前も1週間であり、今回も工程表のコメントなので1週間という風になっているということを回答させてもらった。

大きくは大体その2種類のコメントが多かったということで、手続的にもそれほど難しい問いはなかったという状況。(中村審議官)

- (3) 意見募集の結果等を踏まえて修正を行った宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)の原案について、事務局から説明があり、審議を行った。審議の結果、宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)(原案)は委員会として了承された。なお、今後の修正が必要となった場合、修正内容については委員長一任となった。

以上